GAH NEWS

RiLAC

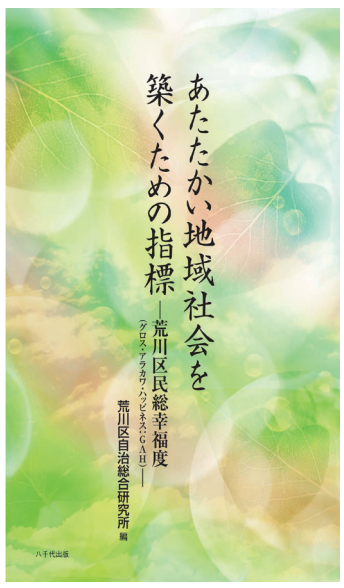
No.3

平成22年5月

荒川区自治総合研究所

荒川区民総幸福度
GAH-Gross Arakawa Happiness

荒川区民総幸福度(GAH)に関する本「あたたかい地域社会を築くための指標」(荒川区自治総合研究所編)を出版しました。



荒川区民総幸福度(GAH)とは

荒川区民の幸福度指標のこと。荒川区では、区民の皆さんの幸福度を数値化し、区政の指標とするため、現在、調査研究を進めています。

本号では、荒川区民総幸福度(GAH)の研究体制についてお知らせします。

荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）に関する研究会について

荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハッピネス：ＧＡＨ）の研究にあたっては、「研究会」及び「ワーキング・グループ」を結成して研究を進めています。

研究会は、荒川区自治総合研究所の研究員、外部の専門家からなる客員研究員、荒川区職員で構成し、多角的な視点から区民の皆さんの幸福とその指標について議論を行っています。客員研究員には、次のような幅広い分野の学識経験者にご参画いただいています。

阿久戸光晴	聖学院大学学長、ＧＡＨ研究会座長	専門:社会倫理学、人権・デモクラシーの倫理学
坂田　一郎	東京大学教授	専門：イノベーション学、産業組織論
南　　隆男	慶應義塾大学名誉教授・帝京大学教授	専門：社会心理学、産業・組織心理学
藁谷　友紀	早稲田大学教授・常任理事、研究所理事	専門：経済理論、経済政策、経営学

なお、研究会には、荒川区の関係所属の部課長が参加しており、研究所からは、所長、副所長、専任研究員が参加しています。

客員研究員のもつ専門的な知識と、荒川区職員のもつ現場の視点とを組み合わせ、活発な議論を行っています。

現在、調査研究の大きな柱として、「幸福概念の構築」「世論調査等の過去のデータの解析」「荒川区の幸福度指標の検討」の3つを挙げ、調査研究を行っています。

荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）に関するワーキング・グループについて

ワーキング・グループは、荒川区の事務職、保健師、保育士、土木職、建築職など様々な経験と知識を持つ区職員及び研究所の研究員で構成しています。メンバーは主に若手職員で、現在、１２名が参加しています。

ワーキング・グループでは、行政の最前線に立つ現場職員の視点から区民の皆さんの幸福度の指標について検討を行っています。

荒川区では、区民の皆さんの幸せに貢献できるよう、研究会及びワーキング・グループが一丸となって荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）の研究に努めてまいります。ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

GAH Gross Arakawa Happiness

編集発行　荒川区自治総合研究所

〒116-0002　東京都荒川区荒川2-11-1

TEL：03-3802-4861　FAX：03-3802-2592

URL：http://www.rilac.or.jp/

編集部より

本紙では、荒川区民総幸福度に関する最新動向やニュース等を毎月お届けしていきます。左記のメールアドレスまで、ご意見・ご感想等をお寄せいただければ幸いです。

荒川区自治総合研究所は、荒川区が抱える課題等について、多角的かつ中長期的な視点に立って調査研究を行い、区に政策提言等を行うことを目的として平成21年10月に設立された機関です。